

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	ギプス固定実技
科目基礎情報				
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期 前期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実技	
教科書/教材	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編 各種固定材料 白衣			
担当教員情報				
担当教員	本澤 光則		実務経験の有無・職種	有・柔道整復師
学習目的				
柔道整復師として必要な固定方法やその運用を学ぶ。名称通り固定材料はギプスを中心として、グラスファイバー素材、石膏のものまで使用する。また、固定と言っても可動域の完全固定、一方向のみ固定する（エクステンションブロックなど）方法を学び治療の幅を広げる。固定継続中に起こる不具合への実際も学ぶ。具体的には固定交換時の時期や注意点およびその実技が行える様にする。また、再転位への対応法も重要でその概念は整形外科勤務時など必須の知識技術である。それらを円滑に行えるようになるには技術だけでなく、それぞれの疾患の基本的な知識の習得、また合併症などを項目だけ暗記することだけで無く解剖学的な特性などを理解して統合して現場で役立てることを目的とする。				
到達目標				
卒業後の臨床の現場で実際にギプス固定を中心とした固定方法を運用できることを原則とする。しかし、扱う症例の様式は多種にわたる。それらのほぼ全てに対応できる様に原理原則をよく理解することが肝要である。また、固定の対象者の特性も理解することが重要となる。固定実技を実際に行った場合固定の対象者の不具合を実際に体験し、施術斜にフィードバックすることで様々なことが理解できる。そのことを固定時に対応できる事がより多くの未体験外傷へ対応できる能力を養うこととなる。その結果、ギプスと言う材料を中心に学ぶが臨床の現場に出たとき本当の対応力となるので、ただ、実技を行いそのことに満足するだけで無く深い考察力および観察力を身につけられる事を望む。				
教育方法等				
授業概要	具体的な症例への対応力およびその実技を学ぶわけでは無く、ある程度の前提（上肢を機能的肢位で固定するとか）で固定を実施する。その後施術斜と対象者が問題点を話し合うことで固定能力を身につける。			
注意点	キャストカッターなど刃物を使うことが多いので事故に注意する。また、お互いに話し合うことでより理解を深め合うのでコミュニケーション能力が求められる。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	70%	課題等を総合的に評価する	
	成果発表 （口頭・実技）	30%	実技内容について評価する	
	レポート	0%		
	成果発表 （口頭・実技）	0%		
	平常点	0%		
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	ガイダンス	授業概要説明		
2回	上肢の固定①	上腕～指先		
3回	上肢の固定②	前腕～指先		
4回	上肢の固定③	応用およびまとめ		
5回	下肢の固定①	下腿～指先		
6回	下肢の固定②	大腿～指先		
7回	下肢の固定③	下腿～指先（ヒール付き）		
8回	振り返り	まとめおよび振り返り		
9回	下肢の固定④	下腿の固定 および松葉杖		
10回	指の固定①	ナックルキャスト		
11回	指の固定②	ロバートソン三方牽引		
12回	指の固定③	指の固定応用およびまとめ		
13回	固定中の管理	実際の患者さんの補助に入り有資格者の元説明が出来る様になる。		
14回	振り返り	まとめおよび振り返り		
15回	総括	総括		